

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 富野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

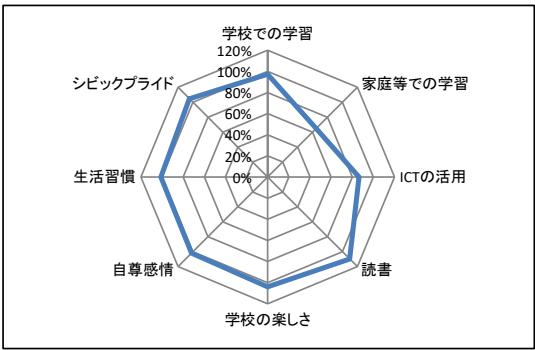
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国の平均正答率をわずかに下回っているが、知識・技能を問う内容のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国との差が小さく改善がみられる。しかし、「短答式」の問題形式の正答率が低く、課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかみる問題	
	努力が必要な問題	読み手の立場に立って、標記を確かめて、文章を整えることができるかみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を下回っているが、「図形」の領域では全国平均との差が小さくなっている。「数と式」の領域、「知識・技能」の観点で正答率が低くなっている。課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必ず起こる事柄の確立について理解しているかどうかみる問題	
	努力が必要な問題	素数の意味を理解しているかどうかみる	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国の平均正答率を下回っているが、「粒子」、「地球」を柱とする領域の問題では全国平均の正答率を上回っている。「思考・判断・表現」の観点で正答率が低くなっている。課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識・技能が身についているかどうかみる問題	
	努力が必要な問題	これまで学習した知識・技能をもとに、化学変化の分解の知識と概念が身についているかどうかみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「友達関係に満足しているか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」との問い合わせに答えて約90%の生徒が肯定的に回答し、全国を上回っている。 生徒の自尊感情や学校での楽しさは全国平均を上回っており、肯定的な回答をしている生徒が多い。生徒間、生徒と教職員間が積極的にコミュニケーションをとり今後も学校が居心地のよい場所となるよう努めていく。 「授業以外で家庭等で学習している」との問い合わせに肯定的な回答をした割合が低い。個に応じた課題の提供やICT機器を活用した学習方法など、支援・啓発していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

調査結果から、基礎学力と学習習慣の定着のために、今後も継続して5教科を中心とした朝自習を実施するとともに、富野タイムや富野ノートの取り組みを行う。生徒の自己肯定感を高めるため、個に応じた指導・支援の充実を図り、「わかった・できた」を実感できる授業・学習体制をつくっていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

調査結果から、起床・就寝時間など比較的、規則正しい生活ができている。家庭学習の効果的な取り組みの啓発や、学校以外での活動の充実を図れるよう、tetoru等を活用して積極的に情報提供していく。また、小中の9年間の神殿たちの成長を見据え、小学校や地域と交流・連携を密に行っていく。